

## Mizuho Short Industry Focus

需給動向レポート(2015 年 6 月)

鉄鋼 ～ 内需のモメンタム鈍化と在庫調整で減産局面～

### 【要旨】

- ◆ 海外経済の回復に円安の追い風も加わり輸出は緩やかに回復しているが、内需は勢いを欠く。在庫水準を適正化しようとする動きも顕在化し、鉄鋼業は減産局面
- ◆ 需要の鈍さと原料価格の下落継続を受け、国内鋼材市況は下落傾向

輸出は緩やかなが  
らも回復傾向

鉄鋼輸出は緩やかながらも回復傾向が続いている。2014 年 10～12 月期に 6 四半期振りに前年比プラスに復した鉄鋼輸出は、2015 年 1～3 月期も前年比+2.1%と増加した(【図表 1】)。前期比<sup>1</sup>ベースでみると 1～3 月期は 2014 年 10～12 月期比 4.4%と 4 四半期振りに減少しており、輸出が一本調子で拡大しているわけではないが、海外経済の回復と円安傾向が追い風となり、基調としては回復しているとみてよいだろう。地域別にみると、主力の ASEAN 向けが現地自動車生産の底打ち等を背景に前年比でみて水面上に浮上してきた。他方、中国向けは、景気減速による鋼材需要の低迷に生産過剰による過当競争が加わって輸出環境が厳しさを増しており、前年比二桁の減少となっている。品目別には、高級鋼分野がマクロ環境の改善の恩恵を受けている一方、中国材と直接競合する建材向けピレット等の分野では円安環境下でも採算割れで輸出困難になるケースも生じている。

内需は勢いを欠  
く展開

1～3 月期の普通鋼国内出荷が 3 四半期連続で減少するなど、内需は勢いを欠く展開となっている(【図表 2】)。不動産価格や建材価格の上昇、人手不足等を背景とする建築コストの増加で民間建設投資が落ち込んでおり、それに伴って建設向け鋼材需要も減少している。製造業向けの出荷は、造船向けや産業機械向けは底堅いものの、国内自動車生産に停滞感が漂う中で自動車向け鋼材出荷が 1～3 月期まで 3 四半期連続で前年割れとなっているほか、電気機械や容器向けも弱含んでおり、これらを主因に全体として需要が減少している。

在庫調整も加わ  
り、減産

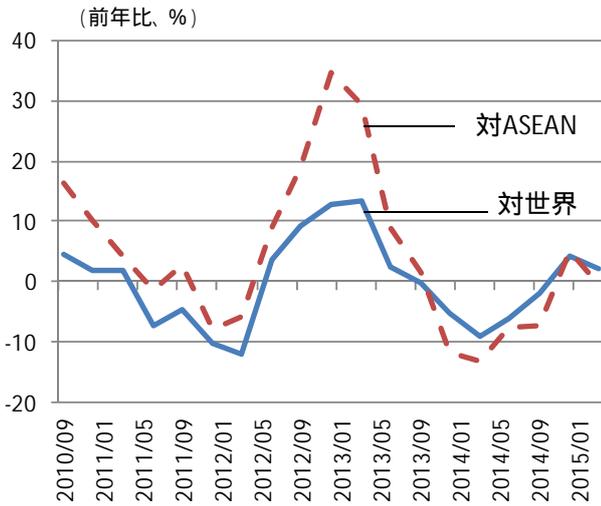
鉄鋼業界では 1 年程度前から在庫の積み上がりを懸念する声もあったが、需要拡大を見込んで生産調整は見送られてきた。しかし、昨年の秋口から内需のモメンタム鈍化が目立ってきたことから各社は調整に舵を切り、在庫循環図上でも調整局面入りが明確に捉えられる状況となっている(【図表 3】)。内需の鈍さに在庫調整が加わり、鉄鋼各社では減産を余儀なくされている。1～3 月期の粗鋼生産量は 2,675 万トン(前年比 3.0%)と、2 四半期連続で減少した(【図表 4】)。

需要・生産の回  
復は年度後半に

経済産業省鉄鋼課によれば、2015 年 4～6 月期の鋼材需要は 2,321 万トン(前年比 3.8%)と引き続き減少が見込まれている他、在庫率等から判断して在庫調整にも今しばらく時間を要するものとみられ、年度の前半は鉄鋼業にとって厳しい事業環境を余儀なくされるものとみられる。年度後半に入ると、在庫調整要因での減産対応は一服するほか、景気の緩やかな回復を背景に鋼材需要も拡大するものとみられ、それに伴って各社の生産活動も拡大基調に復していくと予想される。

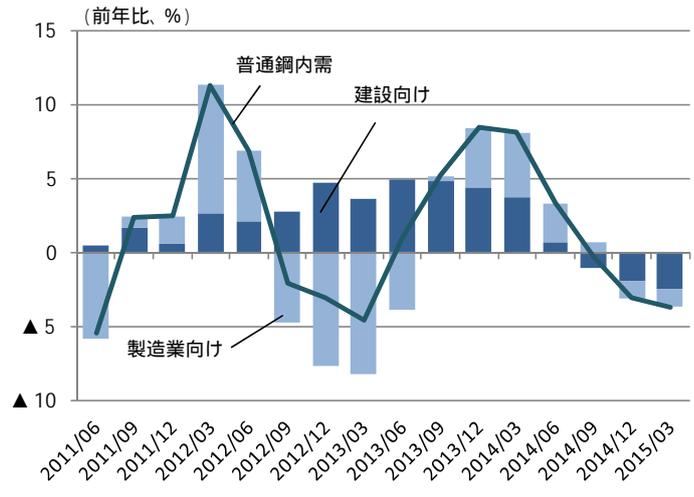
<sup>1</sup> 季節調整はみずほ銀行産業調査部。以下同じ。

【図表 1】鉄鋼輸出の推移



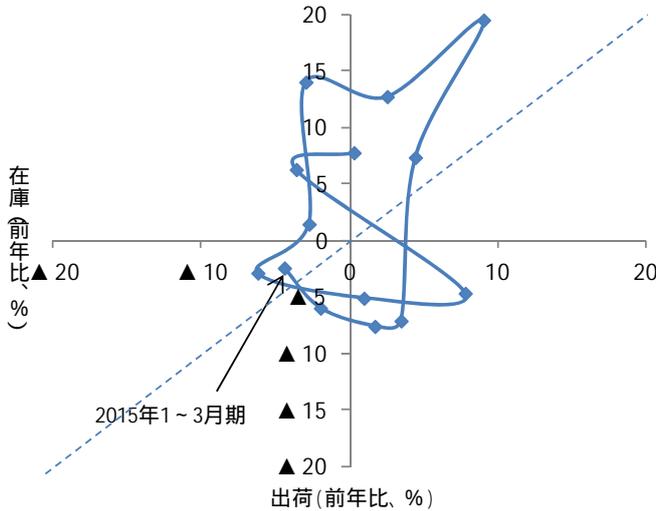
(出所)財務省「貿易統計」よりみずほ銀行産業調査部作成

【図表 2】普通鋼鋼材内需の推移



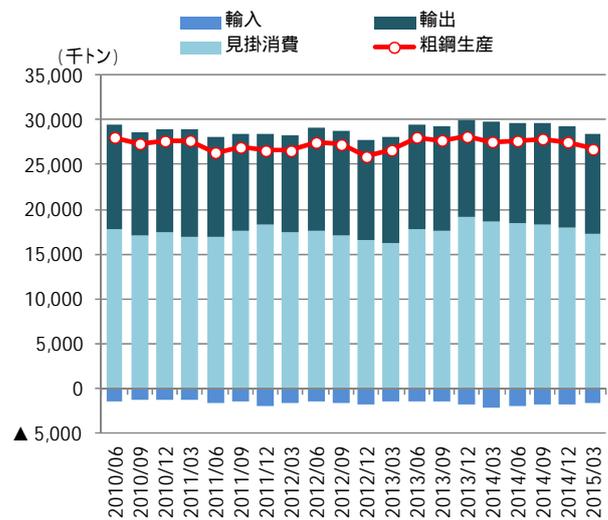
(出所)経済産業省「四半期鋼材需給見通し」等よりみずほ銀行産業調査部作成

【図表 3】鉄鋼業の在庫循環図



(出所)経済産業省「鉱工業生産指数」よりみずほ銀行産業調査部作成

【図表 4】粗鋼生産の推移と見通し



(出所)経済産業省「生産動態統計」よりみずほ銀行産業調査部作成

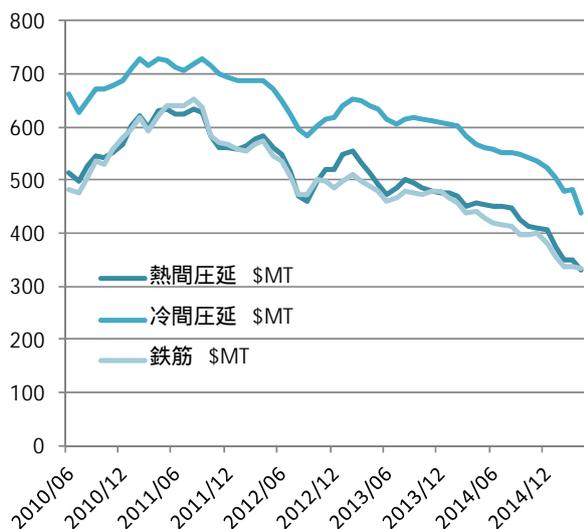
海外市況は弱含みが継続

海外の鋼材市況は弱含みが続いている(【図表 5】)。中国では 2014 年の内需が減少に転じ、過剰設備問題が一段とクローズアップされている。構造的な需給の緩みが市況に一段と下押し圧力を加えており、2011 年のピークからほぼ半値まで下落した鋼材もある。需給と市況の緩みは容易に解消されないとみられ、今後も海外市況の弱含み傾向は持続するだろう。

国内市況も軟化

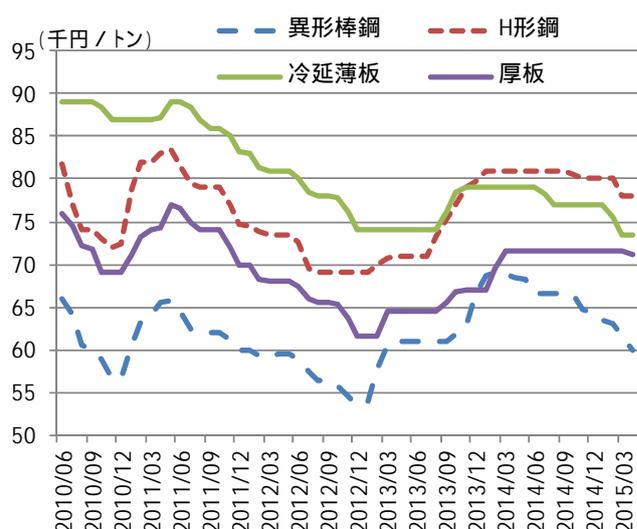
国内の鋼材市況も下落している(【図表 6】)。需要が勢いを欠く中で安価な輸入鋼材の流入もあり、特に建設向け鋼材の価格下落が激しい。在庫調整局面にあるなど需給面から価格には低下圧力が加わりやすい環境であることに加えて、引き続き原料炭や鉄鉱石の輸入価格も低下が続いており(【図表 7】)、当面、国内鋼材価格も下落傾向が持続するだろう。

【図表 5】中国の鋼材市況の推移



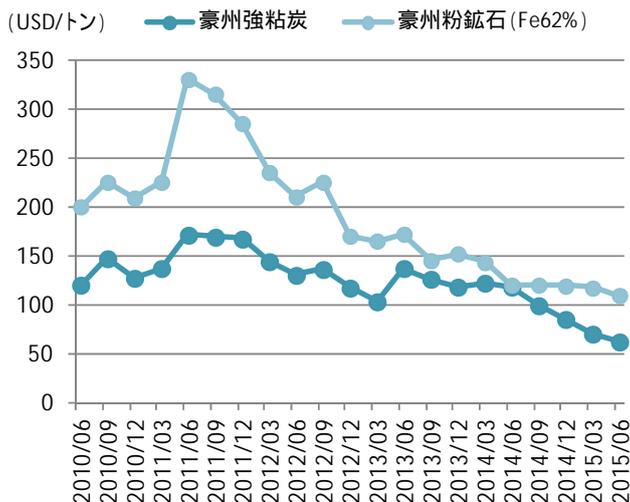
(出所) Metal Bulletin よりみずほ銀行産業調査部作成

【図表 6】国内の鋼材市況の推移



(出所) 日本経済新聞よりみずほ銀行産業調査部作成

【図表 7】鉄鋼原料の輸入価格の推移



(出所) JFE ホールディングス IR 資料よりみずほ銀行産業調査部作成

みずほ銀行 産業調査部

素材チーム 兼 総括・海外チーム 草場 洋方

TEL: 03-5252-6029

E-mail: hirokata.kusaba@mizuho-bk.co.jp

© 2015 株式会社みずほ銀行

本資料は金融ソリューションに関する情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定の取引の勧誘・取次ぎ等を強制するものではありません。また、本資料はみずほフィナンシャルグループ各社との取引を前提とするものではありません。

本資料は当行が信頼に足り且つ正確であると判断した情報に基づき作成されておりますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることがあります。本資料のご利用に際しては、貴社ご自身の判断にてなされますようお願い申し上げます。本資料の著作権は当行に属し、本資料の一部または全部を、複製、写真複製、あるいはその他の如何なる手段において複製すること、当行の書面による許可なくして再配布することを禁じます。